

【事例報告】 姪浜商店街の活気を取り戻すために

西南学院大学 経済学部 4 年 高山秀平氏、河野敬太氏
桐原望氏、吉原匡俊氏、重松修介氏

高山「皆さんこんにちは。人生経験豊富な皆さんに比べれば、まだまだ若輩者の私たちですが、短い時間お付き合いよろしくお願いします。本題に入る前に、せっかくここに来たので、一人一人簡単な自己紹介を行いたいと思います。」

重松「こんにちは。西南学院大学から参りました、4 年の重松と申します。今日のスライドを作成したのが僕です。少し見にくい部分もあるかもしれませんが、ぜひ最後まで見ていただきたいと思います。よろしくお願いします。」

桐原「同じく西南学院大学 4 年の桐原望です。私がこの姪浜商店街活性化のゼミに入った理由は、他のゼミは座って授業を受けるだけですが、このゼミは外に出て活動して学べるからです。本日はよろしくお願いします。」

吉原「皆さんこんにちは。西南学院大学 4 年の吉原匡俊と申します。この姪浜商店街の活動を通して、私たちの活動をこういうところで少しでも広めることが出来れば、と思います。今日は短い時間ですが、よろしくお願いします。」

河野「同じく西南学院大学 4 年の河野敬太と申します。」

ゼミの幹事を務めています。本日はよろしくお願いします。」

高山「最後にプレゼンターを務めさせていただきます、高山秀平と申します。余談ですが、私はプロ野球が大好きで、昔西鉄ライオンズが福岡にあった時代から好きなので、皆さんの世代とお話が合うのではないかと思います（笑）。ぜひこのあと、お話できたらなと思います。それでは、本題に入っていきたいと思います。」

『姪浜商店街の活気を取り戻すために』ということで、私たちは小出ゼミのメンバーで、指導教官である小出先生のもと、グループでやらせていただいています。

まず、『小出ゼミとは？』です。

全国のどの大学にもゼミナールというものがありますが、何人かの学生と指導教官でグループになって進めていく学習活動を、ゼミナール（略してゼミ）と呼んでいます。

小出ゼミが西南学院大学の他のゼミと一味違うのは、学内外の方々とたくさんふれ合えるところです。他の大学の教授、学生や、他の地域の方々がゲストで来ていただき、ディスカッションを行いながら進めていく形を取っており、「多方面との交流が広がるゼミ」です。

ゼミの活動目的は、「姪浜商店街の活性化を目指すこと」です。

ゼミの活動に、テキストを基にしたレポート作成発表があります。商店街や地域活性化のテキストを学習に使っていますが、私たちは、それを朗読するだけでなく、自分たちでどう感じるか、この課題にどう取り組めば良いかを考えながらレポートを作成し、発表して、それを皆でディスカッションしていく形式を取っています。

「グループワーク」は、何人かのグループに分かれて「姪浜商店街がどうすれば活性化につながるか」「どうすれば元気が出るか」を自分たちで考え、それを実践していくというものであります。

ほかにも「就活塾講師による社会人基礎能力ワークショップ」や、「他大学、公務員など多くの学外の方々の講演」があります。私たちのゼミのモットーは、“自分たちで考えて発表すること、自分たちで現地に赴いて考えること”です。この意義は、座学だけだと、やはり座学でしか得られないことに留まってしまう恐れがありますが、私たちは、姪浜商店街に実際に赴いて、歩きまわって、そこで自分が何を感じたか、そういう体験を大事に進めています。

続いて、『姪浜商店街とは？』です。

「皆さんにお尋ねしますが、姪浜に住んでいらっしゃる方、どのくらいいらっしゃいますか。」「あ、いいですね。ちょっと後ほど意見を伺いたいと思います（笑）。」

「それでは姪浜商店街を利用したことがあるという方。」「これは結構いらっしゃいますね。」「さらに質問をしますが、頻繁にご利用なさいますか？」

参加者「はい。」

高山「姪浜にお住まいで、どういうイメージをお持ちかお聞きしたいのですが、率直にいいですか？ここには住んでいらっしゃる方はたぶん少ないので、正直にお願いします。」

参加者「周りにいろんな便利な施設があったり、海が近くだったりして、すごくいい場所だと思います。」

高山「ありがとうございます。もうお一方、聞いてみましょうか。」

参加者「しばらく前までは、商店街に空き店舗が目立ちましたが、ここ最近、新しい店舗ができているな！というふうな印象を受けています。」

高山「ありがとうございます。ちょっと教科書通りのお答えで（笑）、事前の仕込みじゃないかなと思われそうですが。」「では、住んでいらっしゃる方にお聞きしてよろしいですか。」

参加者「わたしは姪浜生まれの姪浜育ちですが、“海の街”“魚の街”という印象が強いんですね。地元商店街で干物やかまぼこを売っていますので、そういう街というのが一番、印象深いと思います。」

高山「ありがとうございます。そうですね、姪浜というのは漁港が近くにあって、朝市、皆さん行かれたことある方もいらっしゃるのではないかと思います。魚の街という印象が非常に強いですね。」

私たちは、「姪浜商店街の課題」ということで、姪浜に住んでいない方、姪浜近辺以外の方にアンケートを取っています。

こちらの地図ですが、西南学院大学、西新ですね。西新から姪浜まで自転車で約20分、という全くあてにならない目安ですが（笑）。撮影した学生が自転車大好きなもので、自転車で何でも推し量ろうとします。それで20分ということになっていますが、意外と近場です。

私たちは、課題を見つけるために、地域住民に対してアンケートを取りました。こちらが、上がってきた課題です。

僕は非常にいい街と思っていますが、今の姪浜商店街についての「アンケートの声」ということでは、「少し寂しいところかな」という印象が多かったです。そもそも姪浜って、「商店街があるの？」という意見も多々ありました。姪浜の一番の印象って駅じゃないかな、というふうに思います。

姪浜駅を交通手段、出勤手段として使う方が多くいらっしゃると思いますが、商店街を目的としてご利用される方は、やはりいらっしゃいませんでした。そこで私たちは、「姪浜商店街には、こういう店がありますよ」と、“立ち寄れる場所”がありますよ、というメッセージを、西南学院大学からアピールをしていく形で活動を行っています。

これが姪浜住吉神社です。住吉神社を利用される方、結構いらっしゃるのでは？と思いますが、案外少ないですね。初詣で、僕、住吉神社に毎年参っていますが、長蛇の列ができていて「すごいな」といつも思います。実は、住吉神社の“住吉”と名のついた神社、全国に600社ほどあるそうです。

先ほど話に出ていました、海の街、魚の街ということで、漁港が近くにあります。“精霊流し”という花火大会が毎年夏に行われ、漁港の近くが会場になりますね。

商店街には、下の写真のようなカフェ「*novel cafe Lily*」や、洋菓子「岡村屋」などがあります。

このカフェが、ラテアート（コーヒーアートとも言い、カップの上にハートやリーフを描く）をしてくれます。店主の方が西南学院大学の卒業生ということで、私たち親しくさせていただいていますが、そういった学生やお客さんの要望に応じて「熊」とか「リーフ」とかのラテアートをしてくれます。

僕が実際に見た時、「すごいな！」と感じました。クオリティが高く、内装がものすごくおしゃれで、若者向けでもありますし、落ち着いた雰囲気もあるので、どの世代の方も楽しめるお店なんじゃないか、と思います。

こちら洋菓子「岡村屋」ですが、いろんな洋菓子を取り扱っていて、中でも代表的なものがレモンケーキです。能古島産のレモンで作られたレモンケーキがこちらのお店で売られていますが、非常においしいので、ぜひ皆さん姪浜商店街に立ち寄った際、ご利用いただければ、と思います。

続きまして、姪浜商店街の中にある、「**M's**（エムズ）コミュニティ」という施設についてです。

「**M's** コミュニティ」は、姪浜商店会連合会、西南学院大学、姪浜商店街の女将（おかみ）さんを応援する会“あこめっこ”の三者が運営するプロジェクトで、活動は2年前に福岡市から「地域との共生を目指す元気商店街応援事業」助成金を受け、開始されました。

これは空き店舗を利用した取り組みですが、毎週土曜日の13時から19時まで西南大生が運営している“**M's** としょかん”など、その地域の方だけでなく地域外から来られた方も利用できる「交流の場」で活動しています。

「活動事例その1」・・・商店街で行われるイベントへ学生が参加しています。

学生が主体となって行うイベントも多々ありますが、まち歩きや姪浜夏祭りのお手伝いの中で「私たちはこういうことをしたい」というプレゼンをして、それを実践していくという形で行っています。

実際に、先ほどの「M's コミュニティ」で、“バー”を開かせていただきました。

その際、SNSなどで、姪浜の「M's コミュニティでこんな事をやりますよ」というメッセージを拡散して、学生を中心に、友人などを呼んで、若者で姪浜を埋め尽くそう！という目的で、姪浜のことを知ってもらいイベントを行いました。その予算や日時は、全部自分たちで考えて行いましたので、これも学生主体だと思います。

このように活動としては、姪浜商店街で行ったのが大半です。

5月のワンデイショップに始まり、姪浜夏祭り、姪の浜文化祭、ハロウィンイベント、これは12月に参加した「地域課題解決全国フォーラム in 庄内」です。

次に「活動事例その2」・・・地域資源の発掘です。

どのような活性化がしたいか、「自分たちで元気にさせたい」といっても、やはり私たちだけの力では限界があると思います。何か目玉をつくる、例えば「何々があるから、姪浜に行きたい」とか、「何々があるから、ついでに姪浜商店街に行ってみよう」とか、そういうものが自分たちは大切だと思いました。

先ほど紹介したレモンケーキがいい例ですが、「こういう場所があるよ」ということをSNSなどで拡散して、そこで西南大生が主体となって「こういうところに行けば姪浜でしか感じられないお寺、神社とかあるよ」というメッセージを発信してアピールをしています。

ここで感じた事は、姪浜商店街の方々も「やはり活性化はしたい」というふうに、個人では思っておられます。自分たちの住んでいる街であり、その方々も住んでおられる地域が好きだと思います。

しかし、もしかして、みなさんの“ベクトルが合わない”のですかね？“一緒にやっ払いこう”という個人個人のベクトルが……。その際、我々学生が、若い力が先導となって、ベクトルを同じ方向に向けてあげるのが大事ではないかな、というふうに思いました。

先ほど「地域課題解決全国フォーラム in 庄内」についてご紹介しましたが、それがこの写真です。

他大学との交流・意見交換会として毎年、山形県酒田市で開催されています。

全国でそれぞれの地域の活性化を目指している学生が集まって意見の交換を行うところが、このフォーラムです。

実は、今朝まで小出先生は山形におられました。毎年西南学院大学から小出ゼミが参加しており、大学の代表としてこのフォーラムに出ています。

最後に、私たちの「成果」です。

大学生の関わる商店街イベントを、私たちはこれまで3回企画してきました。活動は、ボランティアとしての力仕事から、チラシ作りやそのPR活動に及びます。

この中で特筆したいのがPR活動で、最も成果が大きかったと思います。大学生が関わることで、やはり拡散力が違います。大学内のコミュニティ力の大きさだと思います。毎日学校で友達には会えますので。

こちらが“あこめっこ”代表の因幡さんで、姪浜活性化を先導していらっしゃいます。「若い力のコミュニティの強さっていうのを、すごく感じた」とおっしゃっていました。

一方で私たちの「課題」ですが、大学生は4年間しか活動できないため、継続できる大学内での「サークルのような仕組み」の定着が必要だと思います。

私たちも卒業して就職します。仕事に就くとなかなかこのように協力できる機会も少なくなってくるので、意志というか意気というか、それを受け継いでいくサークルのような仕組みが大事ではないかな、と思います。もちろん卒業してからも、こういった姪浜の活性化に関わっていきたいな、と思います。

最後になりますが、小出ゼミは誰でもウェルカムです。

今日、話を聴かれて面白いと思われた方、「若者はスマホいじってるだけじゃないんだな」と思った方々、ぜひ、小出先生にコンタクトを取っていただいて、小出ゼミの授業風景などをご覧ください。

余談になりますが、今年度の小出ゼミの就職実績はなかなか良いですね（笑）。もしお孫さんとかお子さんとか、大学の受験を控えていらっしゃる親御さんがおられましたら、西南学院大学に入って「小出ゼミがあるよ！」と、勧めていただければ、その方にもうまみがありますし、小出先生にもうまみがあるかもしれません（笑）。

以上お時間が来ましたので、これまでとさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。